

川柳 さいたま



平成28年
1月号 (No.674)

日川協加盟

巻頭言

平成二十八年といひごと

願法みつる

平成二十八年を迎えるに当たって、吟社代表として、ご報告少々、ご挨拶申し上げます。

昨年吟社は、群羊の中に紛れながら、淡々と牧草を食んで来ましたが、終盤には、加藤副代表を失いました。振り返れば、一年の齢を失った・・・という実感です。

しかしこの間、十名もの新たなお仲間が加わって頂きました。皆さんご立派な柳歴を持つ同年代の方々です。これから先を、新幹線並みに疾駆する訳ではありませんが、在来線並みの情味溢れる旅を、楽しめるお仲間です。また十月には、十名ほどの会員を同人にお迎えすることが出来ました。さいたま誌面や句会が楽しみです。

ところで、社会全体が、年々様々な面で変化を続けています。川柳を物する為の吟社を取り巻く環境は、今や、清水美江先達が「さいたま」を立ち上げた頃のそれではありません。そして吟社は、まさに「今の埼玉川柳社」らしい雰囲気にあると言えます。東京や周辺近県のそれとも異なる「埼玉県」らしい肌臭いを漂わせています。

そんな埼玉川柳社の今年には、無理な背伸びをすることなく、会員各人が歳相応の背筋を保ちながら、川柳山の猿族の一員として、生きて行くことでしょう。ごった煮の「さいたま」で在り続けたいと祈念します。

日日是好

願法みつる

中年へ烏帽子を呉れる福の神

長生きへ食も控えて独り寝る

耳遠くなつて浮世のパラダイス

押し付けてくる屁理屈の中華風

千年の杉を育てる硬い岩

揉め事へ五欲が絡みややこしい

獅子の子が獅子になるとは限らない

世の中をぶつつぶす気に金が要る

台本にト書きばかりの政治劇